

「安息日で」

1. はじめに

- ・安息日を破ることの律法での罪は。
 - ・律法の中で重罪は三つあります。①息子に割礼をしない②過越しの祭りをしない③安息日を守らない。罰は死刑です。神を冒瀆、反逆したという理由です。
- ・イエスとパリサイ人、律法学者との徹底的な対立がはじまる。
 - 私たちの主が十字架への道を進まれたのは安息日論争からはじまる。

2. 本文

- ・ 2 節「なぜ、あなたがたは、安息日にしてはならないことをするのですか。」
- 5 節「人の子は、安息日の主です。」
 - ・安息日は人のためにつくられたのです。人が安息日のためにつくられたものではありません。マル 2 : 27
 - ・イエス・キリストは安息日の主です。
- * 聖書は安息日をどう言っているか。
 - 出エジプト 20 : 11 「それは主が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にいるすべてのものを造り七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言された。」
 - 申命記 5 : 15 「あなたは、自分がエジプトの地で奴隷であったこと、そして、あなたの神、主が力強い御手と伸べられた腕とをもって、あなたをそこから連れ出されたことを覚えていなければならない。それゆえ、あなたの神、主は、安息日を守るよう、あなたに命じられたのである。」
- ・ 7 節「イエスが安息日に人を直すかどうか、じっと見ていた。」
- 9 節「安息日にしてよいのは、善を行うことか、悪を行うことか。いのちを救うことか、失うことか。」
- ・ 11 節「分別を失ってしまって、イエスをどうしてやろうかと話し合った。」
 - * パリサイ人、律法学者を批判
 - ・ ルカ 11 : 42 「だが、わざわざいだ。パリサイ人、おまえたちは、はっか、うん香、あらゆる野菜などの十分の一を納めているが、公義と神への愛はなおざりにしています。これこそしなくてはならないことです。ただし、十分の一もなおざりにしてはいけません。
 - ・ ルカ 11 : 52 「わざわざいだ。律法の専門家たち。おまえたちは知識のかぎを持ち去り、自分も入らず、入ろうとする人々をも妨げたのです。」

3. まとめ

- ・ 神のみ旨は、イエスを主と告白すること。
 - ・ パウロは律法についてこう言っています。(ガラテヤ 3 : 24) 「律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです。」
 - 律法は訓練でした。ヘブルでは「訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。」(ヘブル 12 : 7)
 - ・ II コリント 3 : 6 「神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者です。文字は人を殺し、御霊は生かすからです。」